

## 大宮工業・浦和工業新校準備委員会（第3回） 議事録

- 1 日 時 令和5年11月28日（火） 午後3時開会  
午後4時45分終了
- 2 会 場 県立大宮工業高等学校大会議室
- 3 出席委員 依田委員長、山崎副委員長、堀口副委員長、大砂委員、石井委員、  
岩崎委員、渡辺委員、鈴木委員、野澤委員、水島委員、金子委員、  
廣川委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協 議 「大宮工業・浦和工業新校（仮称）基本計画（案）」について  
依田委員長 それでは次第2、協議に入ります。まず、協議に当たって事務局から資  
料の概要について説明をお願いします。  
事務局 （資料の概要について説明）  
依田委員長 資料の概要について説明がありました。ここまでで何か疑問点等はござ  
いますか。よろしいでしょうか。それでは、【資料1】大宮工業・浦和工業新校（仮  
称）基本計画（案）について、事務局から説明をお願いします。  
事務局 （大宮工業・浦和工業新校（仮称）基本計画（案）について説明）  
依田委員長 今、事務局から全体を通して説明がございましたが、いかがいたしまし  
ょうか。とりあえず委員の皆様から、全体を通して何かお気づきの点、御質問、御  
意見などがあれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。はい。渡辺委員、お願  
いします。  
渡辺委員 さいたま商工会議所の渡辺でございます。基本的枠組みの中で、五つの工  
学科があるという御説明がありました。今までは機械科、電気科といった名称でし  
たが、工学科という形になっています。ただ、情報サイエンス科だけが工学科とな  
らないんですね。情報に関する学科を併設するという意味合いだと思いますが、同  
じ高校の中で、同じような順列の名前でよろしいのではないかと思います。更にそ  
こで分ける必要があるのか、生徒たちのことを考えると、分け隔てするような感じ  
に受け取れるのではないかと思いますので、できれば、情報サイエンス工学科とい  
う形でよろしいのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。  
依田委員長 渡辺委員からあった御意見でございますが、情報サイエンス科という名  
称について、他の委員の皆様から何か御意見があればお伺いしたいと思います  
が、いかがでしょうか。はい。それでは金子委員、お願いします。  
金子委員 浦和工業高校学校評議員の金子です。私の意見としては、この情報サイエ

ンス科に工学を付けなくてもよろしいのではないかと思います。情報というと、パソコンを使っていろいろな物をプログラミングで作っていくわけですが、プログラミングを通して物を作るというのは、工業の工学的な取組だろうと思います。ただ、この情報の分野は、この後どう発展するか予測が付かない状態だと思っています。機械、電気、建築あるいはロボット技術については、予想は付くのですが、この情報サイエンス科については、まず予想が付かないということと、高等学校の教育課程の中で、工業科の情報技術、商業科の情報処理、普通科の情報、この三つの情報がありますが、その辺がどこに位置付けられているのか。この辺りは見えにくいところですが、私がこの資料を見させていただいた範囲の中では、工業科の情報技術の学びをこのまま進めていくといったときに、果たして工業高校の生徒が、情報社会に対応できるのかという問題も出てくるかと思っています。今はどちらかと言うと、データサイエンスやデータマイニングなど、情報をいかに扱っていくか、そしてその価値を見出していくかということが大分主流になってきているだろうと思います。世の中全体がそちらの方に向かっていくだろうという中で、工業としてデータサイエンスやデータマイニングといったところで工業製品に付加価値を付けていくといった辺りのことを、きっと探究していく学科なんだろうと思います。情報のサイエンス、科学というのがどうなのかということもありますが。そうしたときに、機械の工学や建築の工学とは少し意味合いが違って、情報サイエンスというのはどちらかと言うと、工業の情報技術と、普通科の教科情報のデータ、情報をいかに扱っていくかというところの中間ぐらいの位置にありながら工業的な要素がある学科なんだろうと思います。今後の情報社会にどう対応していくかというのは今後の進み具合にも拠りますが、そういう学科なんだろうと考えています。ですので、今回御提案いただいている情報サイエンスは、学科の中身と学科名がだいたい合っているのかと思います。ただ、中学生が情報サイエンスと聞いたときに、あるいは中学生の保護者が聞いたときに、果たして集まるのかという募集の問題が今度は出てくるかと思いますが、学科名としては、私は情報サイエンス科でよろしいのではないかと考えております。

依田委員長 ありがとうございます。引き続き、御意見がある委員はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。それでは、事務局の考え方を聞いてみたいと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 御意見ありがとうございます。新校は、工業系の学科と情報の学科を併置するというので、似ている領域を扱っているのでコントラストが付きにくいのですが、言ってみれば、例えば工業と農業、商業といったように全然別のジャンルの学科がくっついているというイメージを最初に持っていただいても良いのかと思います。それくらい両者の間には違いがあります。学びの方向性も実は違って、金子委員からは近しい分野がいくつか重なっているというお話がありましたが、本来は違うものと私たちは捉えています。工学というエンジニアリングの部分、これまでの工業高校がやってきた学びをエンジニアリングという捉え方をして、社会につながっていく、実装していく、世の中を良くしていくという意味でのいわゆる工

学という言葉を使いながら、もう一つは情報サイエンスですから、科学ということでもう少し広い捉え方をしています。中学生がどう受け止めるかというお話もありましたが、私たちとしては、情報サイエンスについては、情報教育全般の学びはもとより、コンピュータサイエンス、データサイエンスなどの学びに用いられるサイエンスという言葉を使っており、サイエンスという言葉には、数理的な学びというニュアンスも含まれていますので、そういう受け止めが中学生にはあるのかと思っています。また、名称が情報とサイエンスですので、情報の学びのイメージも出るでしょうし、コンピュータサイエンスやデータサイエンスといった学びのイメージが中学生に届くのであれば、情報とサイエンスの両方のイメージが、学びをうまく結び付けてくれるのではないかと考えました。金子委員から御指摘があったように、高校の学習指導要領の中にある情報と名の付く科目が、工業科にも商業科にもあり、また、全ての高等学校などで学ぶ情報という科目もあり、少しややこしい状況になっています。ですから、それと区分するためにも、ただの情報というわけにもいきませんでしたので、情報サイエンスという名称を案として出しているということをございます。

依田委員長 渡辺委員、いかがでしょうか。

渡辺委員 生徒たちがどう感じるかということが、私は少し気になります。機械などみんな工学が付いているのに、なんでうちは単なる〇〇科なんだと。というのは、〇〇工学科というと普通は大学の工学部などのイメージを子供たちは持つのではないかという気がします。そうすると、もちろん金子委員のおっしゃることもよく分かりますが、生徒たちの受け止めという観点からすると、一緒に学んでいこうというようなイメージで、その辺のところは一緒にした方が良いのではないかという趣旨で申し上げました。どうしても分けるということであれば、いやそれでも、という思いはありませんが、基本的には、学校の中に垣根を作るようで、その辺は好ましくないのではないかというような意見をございます。

依田委員長 ありがとうございます。大変重要な視点かと思いますが、生徒にとってという部分について、委員の皆様から御意見等はございますか。よろしいでしょうか。では、これについても、今の渡辺委員の御意見について事務局としてどのように考えているのか、説明をお願いします。

事務局 確かに、学校というところは一体感が出ないといけないと思います。例えば、この新校を巣立っていく生徒たちが振り返ったときに、あの学校はと思ったときには学校全体がイメージされないといけないものであって、あの学科ということではないと思います。ですから、一体感というところは大事にしていかなければならないと思います。その辺りは、もしかするとこの後、皆さんから御意見を頂戴する校名などに、その一体感の部分が出てくるかもしれません。その一体感が失われないようにうまくやっていき、かつ、工学とサイエンスの色分けも示しつつ、両方をうまく実現できるようにしていきたいと思っています。

依田委員長 大変重要な点を御指摘いただいたと思いますので、その辺につきましては、一つの学科に疎外感を与えないように、今後の新校開設委員会の中でも留意い

ただきながら、教育課程などを詰めていただければと思います。渡辺委員、よろしいでしょうか。

渡辺委員 はい。よろしく申し上げます。

依田委員長 はい。それでは、具体的の中身について入ってまいりたいと思います。資料1を御覧いただきながら、順次進めてまいります。渡辺委員から御意見をいただいた学科については、1ページの一番下、2の(2)に記載があります。その前の1基本姿勢、また、他の学科の名称やクラス数などもございますが、これについて御意見がある委員はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。また最後にまとめて御意見をいただきたいと思っておりますので、進めながら、お気づきの点があればまた伺いたいと思います。それでは2ページに移ります。2基本的枠組みの残りの部分(4)、(5)となっております。開校年度については御承知のとおりかと思っております。(5)は、定時制について位置付けたものです。3校名につきましては、先ほども申し上げましたように、来年度、具体的に皆様から御意見を伺いたいと思っております。よって、来年度に具体的な検討を行うこととなります。4基本理念につきましては、前回、様々な御意見を賜ったところでございます。Society5.0などについても、前回、御意見をいただいたかと思っております。この4について、いかがでしょうか。何か御意見、御質問等があればお願いします。よろしいでしょうか。はい。それでは、2ページの一番下、5教育活動等の基本方針(1)基本姿勢、3ページにいきまして(2)教科指導、(3)生徒指導、(4)進路指導、(5)生徒募集まででございます。一通りお目通しいただければと思います。いかがでしょうか。生徒指導の項目、エンジニアの育成という部分について、エンジニアの育成というよりも社会に出て行くための人間性の育成が重要だという御意見があったため、豊かな人間性を育てという表記に修正しています。よろしいでしょうか。それでは、3ページ下段、6教育活動等の基本方針の具現化にまいります。(1)教科指導、カリキュラム・マネジメントといった少し聞き慣れない言葉もありますが、よろしいでしょうか。はい。4ページにまいります。3ページから引き続き、教科指導はカまであります。(2)生徒指導、(3)進路指導、(4)生徒募集とあります。はい。渡辺委員、お願いします。

渡辺委員 この中に、部活動に触れる部分はどこにもないと思いますが、その辺の記載はどこかに出ていましたでしょうか。

依田委員長 事務局から説明をお願いします。

事務局 他の新校でも話題になったことがあるのですが、部活動は課外活動の一環ということで、課外活動という表現ではどこかに出てくるかもしれませんが、今回は、あえて部活動という表現は、この計画からは外しています。今、国もそうですし本県もそうですが、部活動の地域移行、特に中学校では、お休みの日の部活動は、学校ではなく地域社会が担当するという方向で、国が改革を進めているところです。高校も、中学校に準じた形でというような話もあり、この先、部活動がこういった位置付けになるのか、少しまだ先が見えないところがございます。ですので、余り部活動という形で表現せずに、課外活動としています。要は、正規の1～6時間目の授業以外の部分に委員会活動や部活動やボランティア活動などのいろいろな活

動がありますが、それらを一つにして表現しているということです。

渡辺委員 もちろん、生徒の進路としては大学へ行ったり就職したりということがありますが、企業側から考えると、私の場合、学校でスポーツか何かやっていたかという質問を必ずします。やはり、心身ともに健全と言いますか、そういう意味合いから言うと、何か少し入れておいていただきたいという気がします。

依田委員長 ありがとうございます。今、渡辺委員からあった発議につきまして、これも他の委員からも御意見を伺ってまいりたいと思います。部活動は課外活動ということだという説明がありましたが、これについても何か御意見をお持ちの委員はいらっしゃいますか。はい。野澤委員、お願いします。

野澤委員 大宮工業高校同窓会長の野澤です。今、事務局の方から、部活動の地域移行についての説明がありましたが、中学校もそういう傾向になっていて高校もそれに準じてということですが、単純な質問として、私立の高校はいろいろなスポーツでかなり活躍している状況があるかと思えます。そういう私立と公立との違いというのは、そういうところでも考えていく方向性なのでしょうか。

依田委員長 事務局からお願いします。

事務局 大分大きなお話をいただいたと思います。基本的に、今の部活動の地域移行については、国としては、公立の中学校、高等学校辺りが網にかかってくるのかと思えます。私立も必ず足並みを揃えてやってくださいと国は言っていないかと思えます。結果的にどうなるかと言うと、野澤委員の御指摘のように、違いが出てくるのではないかと考えております。国が考えているのは、部活動の是非というよりは、恐らく、教員の働き方というところが大きいのだと思えます。働き方改革ということが言われて久しいですが、実際に教職を目指す学生が少なくなったり、教育委員会としては、先生になりたいという学生がいなくなっているということに非常に心配しています。そういった中で、今までいろいろな業務が降ってきており、それを仕分けしていかないといけないのではないかとというのが、国の考え方、今の議論です。まだ着地点が全部見えていないという感じがしますので、そこを注視したいと思っています。今回は、このタイミングで出す基本計画なので、少し先が不透明なところについては、はっきりとした書き方が難しいということで、外しているということになります。決して、例えばこの新校で、スポーツを奨励しないとか部活動をやらせないとかそういったことは全然思っていないわけですが、世の中の動きを注視してこのような表現にしております。なお、先ほど課外活動という表現がどこかに盛り込まれているかもしれないという説明をしましたが、案の中にそういった記載はないかもしれないので、健全な若者を育成するという観点ではどこかにあっても良いかと、事務局ながら少し思ったところですが、部活動については、六つの新校全て、同じように記載を避けているというところがございます。

渡辺委員 昔から文武両道と言いますよね。そういったことでくっついていただくと、中学生でも、野球や今はゴルフなどスポーツにすごく力を入れている子供たちもいますので、できればそういったところも伸ばしてあげられると、文武両道ということでも良いのではないかと思います。

依田委員長 はい。事務局からお願いします。

事務局 私の言い方が誤解を生んでいるといけないので、補足させていただきます。国は、平日の部活動を禁じているわけではありませんので、休みの日の部活動を、地域の方々に面倒を見てもらおうという話が出ているということをつけ加えさせていただきます。

堀口副委員長 貴重な御意見、ありがとうございます。スポーツについては、健全な青少年の育成にとって非常に有効なことだと思えます。新校の設置に当たっては、当然、部活動のことも考えていかなければならないと思えますが、先ほど事務局から説明がありましたように、この先の国や県の動向が当然あるかと思えます。統合という一つの機会に、新たな部活動の形を逆に提案するような形で模索していくということもあるのではないかと思います。

依田委員長 課外活動、部活動につきまして、他の委員から御意見等ございますか。よろしいでしょうか。それでは、いかがいたしましょうか。課外活動もしくは部活動について、例えば、5 教育活動等の基本方針の(1)基本姿勢の中に、一文付け加えるような方向があるのかなと、私の方で今、考えたのですが。ページで言うと2ページの一番下、(1)基本姿勢の中に、いわゆる課外活動についての言及をしてみるという形が考えられるかなと思ったのですが、委員の皆様、要・不要も含めて、また、他の箇所の方が良いなど、御意見がありましたらお願いします。いかがでしょうか。はい。廣川委員、お願いします。

廣川委員 魅力ある高校づくり課の課長の廣川です。委員の立場で参加させていただいております。今、皆様の御意見を聞いていて、部活動も含めて課外活動は非常に重要な意味合いを占めていると改めて感じているところです。そういった考え方からすれば、どこかにその趣旨を盛り込んだ方が良いのかなと私も思っています。例えば、4ページの(2)生徒指導のエに、地域のイベント企画やボランティア活動等への参加を通して、自己肯定感や自己有用感を高めるといった記載があります。課外活動というのは、まさしくこの自己肯定感や自己有用感を育むことに寄与するものかと思ひまして、言葉としては整理しなければなりません、この中に、課外活動という言葉を加えていくというのはいかがかと思ったところです。

依田委員長 はい。確認です。4ページの(2)生徒指導のエの部分ということですね。これは具現化の方に入れるということでしょうか。

廣川委員 はい。

依田委員長 なるほど。という御意見がありました、他の委員の皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、事務局の考えをお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

事務局 この部分については、課外活動という言葉は使っていませんが、実質はそういったことを記載しております。地域のイベントに出る、あるいはボランティア活動に参加するというのは、まさに課外活動と同じですので、こういったところに、近い言葉を並べていくということはあるかと思ひます。部活動とはなかなか書きづらいという事情がありますので、例えば、スポーツをはじめなど、いろいろと言葉

をうまく整理して盛り込むことは可能かと思います。手続き的にも、この原案を作った、教職員と教育局の職員から成る第3回基本計画検討委員会では、これを案として既に承認しておりますので、そちらの委員会ともやりとりしながらということになりますが、こういった修正であれば可能かと思います。

依田委員長 私どもの方も、できるだけこの委員会での意見を可能な限り尊重したいと思っております。それでは、4ページの(2)生徒指導のエ、地域のイベント企画やボランティア活動等への参加を通して、自己肯定感や自己有用感を高めるという部分に、スポーツなどの課外活動等といった文言を組み込んでいくということによろしいでしょうか。

野澤委員 今、委員長がおっしゃった、生徒指導のエに組み込むということですが、事務局からは、教職員との兼ね合いもあるので検討するということがあったかと思うのですが、今、この方向性でいくということにして良いのでしょうか。

事務局 調整をしますというプロセスの話をさせていただいたので、御意見をいただければ、その修正をするためにはこういうことをしますという話をただけです。

野澤委員 ここに入れるということはこの場で決めてしまっても良いのですか。

依田委員長 事務局としてこの案で大丈夫ですか。

事務局 和光新校などにも、同じパートに課外活動という名称で入っています。他の新校にも例がありますので、ここは入れられると思います。

依田委員長 委員の皆様がそれでよろしければ、その方向で調整していただきたいと思えます。

事務局 はい。調整を行って、皆様にはこういう文言になりましたとお知らせをする形でしょうか。

依田委員長 その点については、最後に皆様にお諮りしてということになるかと思えます。取扱いについては最後に確認をします。

渡辺委員 同じ(2)生徒指導のイのところ、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）活動や安全教育の推進を図るとありますが、安全教育の中にスポーツが入ってくるので、その辺のところも考慮していただければと思います。スポーツを通じて安全教育になると思います。

依田委員長 いろいろなところに絡んでくるとすると、具現化ではなくやはり基本方針の方がもしかしたら良いのかもしれない。今の渡辺委員の御意見について、いかがでしょうか。渡辺委員、両方に入れるということでしょうか。それとも、こちらの方が良いというのがありますか。

渡辺委員 ボランティアなどとは少し違うような気がします。どちらかと言うと、安全教育に付けた方が良いと思います。その辺はうまく調整していただければと思います。

依田委員長 事務局からありますか。

事務局 そうしましたら、スポーツや課外活動をしっかり入れ込んで、日常の学校教育、正課の教育と課外の教育の中で、若者としての健全な育成をしていくということがうまく表現できるように文言を練りたいと思えますが、この場でこの原案でと

というのはなかなか難しいと思います。少しお時間をいただくということでよろしいでしょうか。

野澤委員 良いと思います。

渡辺委員 よろしくをお願いします。

依田委員長 では、事務局で検討してということでよろしいでしょうか。

山崎委員 大宮工業高校校長の山崎です。いろいろな御意見、ありがとうございます。部活動については、大宮工業高校に限ったことではありませんが、ラジオ部など文系の部活動も 20 近くあり、非常に良い雰囲気で行っております。そういった生徒たちも非常に規律正しいし礼儀正しい子が集まっておりますので、上位概念に入れるのであれば課外活動という言葉でくくっていただいた方が良いでしょう。スポーツだけに限定すると、音楽部などいろいろな部活動で頑張っている生徒はスポーツではないのかということになってしまうので、具現化に入れるのであればスポーツ等などとして含んでいただいても良いかと思いますが、言葉を使い分けていただければと思います。

依田委員長 事務局、これはよろしいですね。

事務局 はい。

依田委員長 私の進め方がつたなく、二転三転してしまいましたが、いろいろ考えると、生徒指導の項目自体がどうかということもあります。(5)のその他に課外活動の記載を設けるということも考えられますでしょうか。委員の皆様、いかがでしょうか。(5)その他に、課外活動の言及を一文入れるということもありますでしょうか。金子委員、お願いします。

金子委員 教育課程の中に特別活動があります。特別活動も自己の形成にとってはすごく大切で、自己肯定感を育てるために学校の中で様々な教育活動を行いながら、スポーツなどを通して教科以外の中で子供たちの成長を促すということもありますが、特別活動の中ではそういうところを狙っているし、教育の最後の部分として、子供たちの心身を育成しながら健全な青少年を育成していくと。特別活動編というのも学習指導要領の中にありますので、そこに類するものだろうと思います。ですので、(5)に入れても私はよろしいのではないかと考えております。

依田委員長 はい。岩崎委員、お願いします。

岩崎委員 私は、この会では、この文言を入れるという確認を取って、どこに入れるか、どう表現するかは事務局に一任します。

依田委員長 ありがとうございます。その他、御意見ございますか。今、岩崎委員からもお話がありましたが、金子委員、野澤委員、渡辺委員からの様々な御意見を踏まえて、事務局の方で持ち帰って基本計画検討委員会の委員と調整の上、事務局の方で整理したものを、改めて皆様にお示しさせていただくようにしたいと思います。これについては、私の方で預らせていただいでよろしいでしょうか。

(了承の声)

依田委員長 大変恐縮でございます。それでは、引き続き進めてまいりたいと思います。4 ページ、(3)進路指導、(4)生徒募集、(5)その他について、いかがでしょうか。

はい。金子委員、お願いします。

金子委員 設置する学科について、今回、〇〇工学科と前回から名称を変更したということ、これは大きな名称変更だろうと思っております。新校の名前が発表されて、そこに学科名が出たときに、この発表によって、県民や中学生にとって、かなりのアピールになるかと思えます。そうすると、〇〇工学科となったのは、新校のPRの材料になるかと思えますし、生徒募集に関わる部分で一つの売りになるかと思えます。ただ、〇〇工学科に変わったというのが、ただの名称変更では困るかなと思えます。工学というのはどちらかと言うと、理学をベースにしなが、その基礎理論をもとに、それぞれ電気、機械、建築の分野をそれぞれ発展させながら、人々の生活の役に立つようなものを作っていくというベースがあるかと思えます。となると、教育課程の編成も、工業の単位数がどうなるのか。例えば、電気工学科の単位数については、工学ですから工学の部分を多く取り入れるとなると、少し大きくなるのかと思えます。当然、数学や理科の部分についても少し多くやっていくという意味合いをもってこの工学としているのかどうか。埼玉県の中で、工学と付いている学科を設置している工業高校はないかと思えます。ですから、新校では工学にしたと、あるいは情報サイエンスにしたということが大分売りになりますので、教育課程の編成、あるいは教科指導、生徒募集についても絡んでくる場所ですので、現段階ではよろしいのですが、工学科に変わったことによって、この後、何が変わっていくのか。そこが見えませんが、その辺の御説明をお願いします。

依田委員長 それでは、事務局からお願いします。

事務局 もちろん、ただ看板を架け替えるという形にならないように、この後、新校を開くときの、地域の皆さんや中学生へのPRの場面では、いろいろお話をしていく必要があると思っております。先ほど金子委員からお話しいただいたように、工学というのは、理学的な学びがあって、それをどう社会に実装していくか、世の中にどう役立てていくかというのが、エンジニアリング、工学だと思っております。ですので、中学生がどう聞くかということもありますが、少しハードルの高さを感じるかもしれませんし、基礎からはもちろんのこと、最先端に近づくところまで、そういった表現がこの案には出てきますが、そういった学科にしていきたいという思いがあります。より高度な学びができるという期待があるのだとしたら、それに応える教育課程を作っていく必要が当然あります。学校の教職員などと合わせて来年度立ち上がる新校開設委員会の中で、実際の教育課程を組んでいきますが、学科の名前と齟齬が生じないような教育課程づくりをしていく必要があるだろうと思っております。御指摘いただいたとおり、確かに埼玉県内に工学と付く工業の学科はありませんが、領域は違いますが、農業系の学校、熊谷農業高校と杉戸農業高校に、生物生産工学科があります。領域が違うので比較にはならないと思っております。この後の教育課程は、こうした御指摘を踏まえて、より高みを目指した教育課程ができると良いと考えています。

堀口副委員長 非常に大事なことかと思えます。工業高校はどちらかと言うと、技能を中心に即戦力の育成という形でやってきたところですので。その理念は良いと思いま

す。それにプラスして、しっかりした理論を教える、そういったものを付加的に教えるということが、差別化と言いますか、そういった意味でも、工学と付けるのは私は良いと思います。

依田委員長 岩崎委員、お願いします。

岩崎委員 この資料を最初にいただいて見させていただいて、引っ掛かったというわけではありませんが、工学というところに、うーんと思いました。前回の会議で、情報と工業の違いをいかに出すか、二つの学科があるわけですから、そういったリクエストがあって、その辺、御苦労されたかと思います。私の個人的な感覚ですと、機械科というと工業高校で、機械工学科というと大学のイメージがあります。あくまでイメージですが、それだけ理論的に、少し高度なこともやるというイメージです。今後、教育課程の編成をどうするかということも大事だと思います。全国工業校長会の一覧の冊子がありますが、他県で機械工学科と付けている学校があるのかと思って見たのですが、何校かありました。教育課程を編成するときには、そういった学校でどう組んでいるのかを参考にすることも、一つの手かだと思います。全国でも少ないことは確かです。それだけインパクトはあると思いますが。

依田委員長 様々な御意見がありました。事務局、いかがでしょうか。

事務局 工学が付く学校の全国的な傾向については、事務局でも調べております。静岡県には機械工学、電気工学、電子物質工学、ロボット工学、都市工学、都市基盤工学、都市環境工学、理数工学などがあります。静岡県は非常に多いです。愛知県ではIT工学、ロボット工学、都市工学など、例を挙げればきりがありませんが、東京も含め複数の都県で工学と付く学科はあったので、それが最近の流れなのかは分かりませんが、違いを出すという意味で、おっしゃるとおり結果的にはそうなったわけですが、うまく、名前に負けないような学びができるようにしていきたいと考えております。

金子委員 私も事前に送られてきた資料を見て、まず工学が目につきました。当然、大学には工学が付いていますので、そのための学びをしているところですが、高校ですと、例えば電気科、あるいは電気工科、関西などの工業高校では工科という名称を学科名に付けているところがあります。私の方でも、全国の工業高校を確認しましたが、数校しか工学が付く学校はありませんでした。ですから、かなりインパクトはあるのは確かですが、そうしたときに、では大学の工学科と工業高校の工学科は何が違うのか、どういう学びの分類があるのかとなったときに、やはり基本的には工学ですので、先ほど申し上げたように、基本的な理論をベースにこの学びの体系が作られていったときに、教育課程はどう編成していくのかという問題が出てくるかと思います。そこがすごく気になりました。ですから、工学という名称を打ち出すのであれば、それに見合うような教育課程を編成しなくてはならないし、それから成果も出さないといけないと思います。高校3年間でやったことが、前と変わらなかったということでは工学を付けた意味もないですので、そういったことを先ほど質問させていただきました。やはり工学が付くからには、教育課程をどう編成するか、ものづくりをどうしていくか、この辺りはきちっと考えていかないとい

けないと思います。そして、カリキュラム・マネジメントという文言もありましたが、生徒をどの段階まで到達させて卒業させるかということも、マネジメントの中に設定していかないとまずいだらうと思います。

依田委員長 大変納得感のあるお話かと思います。これについては、事務局、決意を一言お願いします。

事務局 皆様の期待を感じました。本当に、この学校を、埼玉県の工業教育をリードしていくフラッグシップの学校に是非していきたいと、そんな気持ちでこの学科名を付けているということを申し上げて、本当に頑張っていきたいと思っております。学校が教育課程を組んでいきますが、教育局の教育課程担当は高校教育指導課というところですが、その指導主事なども絡めて、良い教育課程を作っていきたいと思っております。

依田委員長 はい。それでは先に進みたいと思います。4ページの一冊下、7 開校準備につきましては、施設・設備や文書等の取扱い、校章、校歌、制服などについての記載となっておりますが、何か御意見や御質問等がありますでしょうか。はい。野澤委員、お願いします。

野澤委員 (4)校章、校歌、制服等の項目についてお聞きしたいのですが、制服について、浦和工業高校は今年度で募集は停止していますが、大宮工業高校は引き続き募集して在校生がいます。制服が変わったときには、どういう対応をするのか、これはあちこちで今、そういう問題が出ているような感じがしますが、その辺のお考えをお聞きしたいと思います。

依田委員長 事務局からお願いします。

事務局 はい。具体的には現在の大宮工業高校が、この先、新校に向かって進めていくときに起こってくるのかと思います。今の制服を着ている生徒たちが上級生になって、もし制服を新たに定めるとすると、新しい制服を着た入学生が入ってくることになります。ですので、開校から2年間は混在するというやり方も一つあります。過去の統合のパターンでも、制服が混在してしまうのはやむを得ないと。新校が開いたときには2、3年生は旧モデル、1年生は新モデル、翌年には、2学年分が新しくなって、古いモデルを着ている3年生がいる、3年目になると、全員が新しい制服に変わるというやり方をした統合のパターンもあります。また、可能性としての話ですが、今までの制服を全て切り替えてしまうというやり方もなくはないのですが、これには御家庭の経済的な負担が出てきますので、通常の学校はその手法は取らないと思います。ですので、混在する2年間があるということでお考えいただければと思います。

野澤委員 考えてみれば、校章も校歌も同じですね。

依田委員長 校章、校歌はどうなりますか。

事務局 これもいろいろなパターンがありますが、通常の統合のパターンでは、新しい制服を着た1年生が入ってきたときには、新しい校歌、新しい校章となっているケースがほとんどです。そうすると、2、3年生は、前の校章、校歌を知っているわけですから、新しい校章、校歌と、二つの校章、校歌を知ることになります。こ

の辺りの切り替えというのは、学校がやっていくということになります。私が過去に勤務した学校では、校歌の歌詞の中に校名が入っていましたが、校名が変わったので、権利を持っている作詞者の関係者をお願いして詞を変更し、半小節長くなったので楽譜も変えて、校歌を少し改編したのですが、その改編した校歌を上級生にも歌いました。

野澤委員 仕方ない部分はあるでしょうね。ですが、複雑な気持ちでしょうね。

依田委員長 併用という可能性もあるのでしょうか。2年間は校歌が二つあるということはあり得ますか。

事務局 なかなかないかもしれませんが、ただ、今年の4月に開校した第1期の児玉新校と飯能新校ですが、児玉新校についてはこの1年間は二つの校歌を併唱しています。飯能高校は再来年度まで二つの校歌を併唱することになっています。なぜかと言いますと、この二つの新校は統合の仕方が違って、在校生を巻き込んで、一緒に、児玉新校の場合は児玉高校と児玉白楊高校の生徒が在籍している状態で一緒になっております。その関係で、その生徒たちが卒業するまでは両方の校歌を歌おうということになっていると聞いています。飯能新校も同じように、本校舎と南校舎の二つの校舎がありまして、南校舎というのはかつての飯能南高校ですが、こちら両方の校歌を併唱していると聞いております。

依田委員長 いろいろな取扱いがあるということですね。これについては、対象校において、生徒も気持ちも汲みながら検討いただければと思います。先に進んでよろしいでしょうか。8、9、10にまいります。8については、今、野澤委員からもありましたように、在校生に不利益がないようにしっかりやりますという記載です。9については、再編整備に当たって、必要なお金についてはしっかり事務局ががんばるという記載にさせていただいております。10については、浦和工業高校の今後の跡地の問題、また、同窓会や後援会、それぞれの対象校が保管している物品の取扱いについて触れております。8、9、10について、御意見、御質問等がございますか。

渡辺委員 これはとても大事なことだと思うのですが、在校生ですね。特に今回、浦和と大宮ですから、浦和工業高校の在校生の不利益にならないように配慮すると言ひ換えても良いくらいだと思います。工業高校ですから、恐らくいろいろなデータを持っていると思います。そういうデータ類をきちっとバックアップできるような体制だけは取っておいていただきたいと思います。それと、例えば機械系や情報系のツールも、多分リース等で契約している部分もあると思います。後1年しか残っていないということのないように、例えば、3年生1学年しかいないというときに、リースの更新はできませんということのないように、一つお願いしたいと思います。この文言で大丈夫だと思いますが、よろしく申し上げます。

依田委員長 これについては、事務局、よろしく申し上げます。

事務局 はい。

依田委員長 まだ御発言いただいていない委員から、できれば御発言を賜ればと思いますが、大砂委員、これまでの協議を通して何かございますか。

大砂委員 中身については、皆様の御議論いただいた内容に賛同させていただきたい  
と思います。関連するところとして、10の(1)に跡地の利活用について、申し上げら  
れる段階ではありませんが、市の方でも、しっかりこの跡地について、多角的に検  
討していくといった状況にあることは間違いありませんので、また、然るべきタイ  
ミングが来れば、案という形でお示しできるタイミングになれば、御協議等させて  
いただきたいと考えております。

依田委員長 事務局はよろしいですね。よろしく申し上げます。では、石井委員、い  
かがでしょうか。

石井委員 大丈夫です。

依田委員長 分かりました。鈴木委員、いかがでしょうか。

鈴木委員 先ほど生徒募集のところでお話があったかと思えます。機械科から機械工  
学科へ、工学が付くことになったことについて先ほど議論がありましたが、このこ  
とについて、中学生が進路選択する上で、新校が、本校の場合は隣にできるんだと  
いうことで、名前がリニューアルされるだけなのかと捉える生徒ももしかしたらい  
るかもしれません。しかし、工学科に皆さんの期待が非常に高まっているというこ  
とを感じました。ということは、今の中学生、ひよっとしたら小学生に、このさい  
たま市北区に新しい学校が誕生するに当たって、こういう学科の特性があるんだよ  
とか、こういう良さがあるんだよとか、こういう勉強をすることでこういう力が付  
くんだよといったことをしっかり広報していかないと、棲み分けができないのでは  
ないかと思えます。また、子供たちが希望を持って入ったは良いけれど分からない  
ことが多いとかいろいろあるかと思えますので、この辺は新しく教育課程を作る上  
でいろいろ大変な部分があるかと思えますが、子供たちが工業高校を選ぶに当たっ  
て、本当に広がったと思えるような広報ですとか学校づくりというのは、求めたい  
と思っております。

依田委員長 ありがとうございます。今の御意見についても、事務局は受け止めてい  
ただければと思います。それでは、水島委員、お願いします。

水島委員 浦和工業高校後援会長の水島です。非常に興味深く皆さんのお話を聞かせ  
ていただきました。私もこの準備委員会に入る入らない以前の問題で、昨年7月  
に、本校に埼玉県の方にお越しいただいて、こういった形で統合するというお話を  
いただく機会がございました。その際に、地域の皆さんが非常に不安視している  
という御意見がありました。当校に関しては、川が近くにあるということで、学校の  
中に避難所があります。学校がなくなってしまうたら、避難所がなくなってしまう  
のではないかと、私たちにもしものことがあったときに、私たちはどこに逃げたら良  
いのかといったお声がありました。あるいは、学校の施設・設備がどういう形にな  
るのかということに、非常に大きな御意見をたくさんいただきました。そのときに、  
1時間ほど地域の皆さんが、不安で仕方ないと訴えてこられたケースもありました。  
そういう部分で、浦和工業高校の場所、物理的に学校としてはなくなるということ  
ではあります。子供たちは新しい学校の方でのびのび生きていただければと思  
いますが、学校の施設の場所というのは、その地域に住んできた方たちに守られてき

たというところもあります。また、浦和工業高校が開校するという事で土地を譲ってくれた方もいらっしゃると思います。そういった方々にも、立つ鳥跡を濁さずではないですが、皆さんに、浦和工業高校があって良かったね、新しい学校が生まれて良かったねと温かく見守っていただけるような終わり方をさせていただければと思っております。また、こういった形になるという想定がなかったので、浦和工業高校も空調の設備を新しくしていたり、リース期間が残る状態で学校を畳むという形になることとか、工業高校ですので新しい設備、機械を入れているということもあります。是非そういったものも、新校の方でフル活用していただいて、工学科ということで先ほどから話題に上がっていますが、期待値が非常に高いということで、そこに対するモチベーションを持った子供たちが集まって、その子供たちがしっかりと学ぶためにここに来るといような決意が表れる学校にさせていただきたいと思っております。

依田委員長 これについては事務局に伺います。今、水島委員から近隣の方たちのお話がありましたし、備品等のリース期間のお話もありました。この辺について、基本的な考え方、方針みたいなものがあれば、お願いします。

事務局 地域への説明会については、私も参加させていただいて説明をしましたが、そのときに、そういった避難所のことを心配されるお声や地域の皆さんのお声は受け止めさせていただいたつもりです。学校を一つ閉じるということになりますので、防災上の問題、防災のいろいろな施策についてはさいたま市の協力もありますが、機能を維持できるような良い形、何かそういった方法があるか検討を続けていきたいと思っております。また、学校にある様々な備品、物品、大きな実習用の機器等の利活用についても、せっかく税金で入れていただいているものですので、最大限活用できるようにしていきたいと思っております。空調関係のリース等については、実際に第1期の学校でも似たような事案がありますので、なかなかこうですとお約束はできませんが、県としてうまく対応していきたいと、ここは誠心誠意、対応できるように努力してまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

水島委員 よろしくをお願いします。

依田委員長 はい。それでは一通り御協議いただきました。お時間となってきましたが、この際でございますので、協議を通して、何かこれだけはということがあれば、御発言いただきたいと思っております。いらっしゃるでしょうか。岩崎委員、お願いします。

岩崎委員 頓珍漢な質問になってしまうかもしれませんが、この基本計画については大変良くできており、私は大賛成です。ただ、この基本計画の効力と言いますか、何が言いたいかというと、具現化するためには予算がかかるものです。基本計画は作ったけれども、実際にこれを展開しようとしたら、県の財務課なのか指導課なのか分かりませんが、予算化を渋って、そうするとこの基本計画は絵に描いた餅になってしまいます。ですから、この効力というのは、局の中でどこまで発揮できるのか、はっきりとは言えないかもしれませんが、お聞かせいただければと思います。

依田委員長 これは私からお答えします。この基本計画がまとまりましたら、この基

本計画は、いわゆる教育局全体を縛るものと捉えていただいて結構です。予算関係、教育局で言えば教育総務部というところを含めて、教育委員会全体がこの基本計画の実現に向けて進んでいくこととなります。当然、予算の権限を持っているのは知事ですので、知事に御理解いただいて予算付けしていただかなければなりません。そのことについての努力は、教育委員会が一丸となって、この基本計画に基づいて動くこととなりますので、精一杯、新校の実現に向けて努力してまいります。皆様からこれまでいただいた御意見を決して無駄にしないように努力してまいりますので、そこは私の決意として申し上げます。

岩崎委員 よろしく申し上げます。

依田委員長 それでは、両校の校長先生から、一言ずついただきたいと思えます。

堀口副委員長 原稿の段階ですが、先日、学校案内を作成させていただいているところです。学校案内は基本的に生徒募集を前提とした観点で作成するもので、昨年度作ったものをもって募集は停止しましたが、学校としての説明責任という意味で学校案内を作ろうというところです。その中に、最初に私の言葉で、「新たな時代を迎え、埼玉県立浦和工業高等学校は生まれ変わります」というキャッチフレーズでやっております。浦和工業高校の歴史を見ますと、過去に、地域のニーズを受けながら、その都度、発展、充実させてきたという経緯がございます。今回の統合に当たり、更に素晴らしい学校になるように期待感を持って引き継ぐというような文言で作っております。その中で、準備委員会の役割というのは非常に大きいと思えますので、是非、その中で御意見等を頂戴しながら良い学校にしたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山崎副委員長 長い時間にわたってありがとうございました。委員の皆様のお話は、新校への期待、励ましと思って伺っておりました。大宮工業高校のことと言えば、今、100周年の準備をしております、令和7年に100周年で、新校は101年目を迎えてということになります。新たな歴史を作っていくんだと身が引き締まる思いでいます。この基本計画案にもありますが、新校は工業科と情報科の二頭立てです。情報科は、言うなれば普通科の学校ができると思っていただいて良いと思えます。二つの学科がうまく融合して、それがシナジー効果というかより良い効果を生み出せるのではないかと、今のお話を聞いていて感じた次第です。工業科は、もちろん新校では、県内の工業高校のリーダー校として工業高校を牽引していく、そんな学校になるなということ、実は県内の15校の工業高校の校長が期待しています。この間、工業校長会があって、大宮工業が浦和工業と統合して新しい学校になるということは、当然、他の工業高校だって一緒に頑張っていくという話をしていたので、その他の県内の工業高校も期待してこの新校を見ているということです。ですので、その他の県内の工業高校も一緒に新しい学校をつくりながら、工業教育をどうしていこうかということを考える機運になっていくことを期待しています。また、情報科については、全く新しい学科を県内につくるということで、実は全国を見てもそんなにたくさん情報科はありません。ですので、工業科については、工学という名前を付けている他県の工学系の工業高校が何をしているか参考にした

いところですし、情報科についても、他県ではどうやっているかなというところを、いろいろ参考にさせてもらいながら、より良い学校をつくりたいと考えているところでは、生徒には、基礎・基本と言いますか、工業の根っこにある部分はしっかり学ばせないといけないし、工業の拠点となる学校として新校として新しくなるということで、そこは外せないだろうと思っています。情報科というのは、昔は読み・書き・そろばんで、今は数理・データサイエンス・AIと言われており、どんどん進歩しているところでもあります。ですので、工業系の生徒たちにも是非、情報の勉強もしてほしいし、いろいろなところで垣根を超えて、学科横断、又は学科の専門性を高めていくということが、それぞれうまくやれるような形で、是非、つくっていきたいと思っています。新しい学校ということで、引き続き、御協力をお願いしたいと思います。来年もまた打合せをしていかなければいけませんし、岩崎委員がおっしゃるように、お金は大丈夫かなと心配なところはあります。人はいるのかと。人手不足というのは教員の世界でも同じように言われておりますが、精一杯やって、中学生や小学生の皆さん、泰平中の皆さんにもたくさんきていただくと良いなと思っています。期待しながら、一緒にやっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

依田委員長 それでは、よろしいでしょうか。ありがとうございます。特に課外活動等について御意見をいただきましたが、しっかりとここでお示しできなかったことを申し訳なく思っております。この後、持ち帰って整理させていただいて、皆様の方には、メール等で御提示させていただきます。その中でまた皆様から御意見があれば、忌憚なく事務局までお寄せいただきたいと思います。それを受けて全体の整理を最終的にさせていただき、教育委員会に報告したいと思います。先ほど申し上げましたように、今回が3回目の委員会となりますので、今年度については、この委員会を最後とさせていただきたいと思います。来年度は、校名などもございますので、また皆様方から御意見を賜りながら、新校の準備を更に加速してまいりたいと思っています。最後になりますが、お忙しい中、ありがとうございます。また来年度に向けてお世話になります。引き続き、皆様方にはお世話になります。よろしく申し上げます。